

2011 年度「NEC匠塾」実施内容および講師

(1) オリエンテーション

「自己を振り返る。自己探求の旅」

自分のこれまでの歴史、今の自分の価値観等に影響を与えた事柄、ターニングポイントを振り返る。自己を形成した歴史を振り返るとともに、受講の目的を明確にし、セカンドライフの方向性、構想につなげる。

- チームビルディング(目的の確認、研修内容の確認、チームをつくる)
- 「自分史」作成に取り組む(ディスカッション、写真のワーク、年表のワーク、履歴書作成)
- 「自分史」を発表する(シェアリング、まとめ)

ファシリテータ: 株式会社教育と探求社 宮地 勘司 氏

(2) 体験ボランティア

日の出太陽の家

【期間】2011 年9月16日(土)～17日(日) 1泊2日

【場所】社会福祉法人太陽福祉会 日の出太陽の家(東京都西多摩郡日ノ出町)

【内容】利用者(知的障害者)との共同作業／レクリエーション／炊事／掃除

※受講者間で役割を分担し、企画作りから実施までを担う

(3) 基礎講座

1. 「社会の変化と“新しい公共”の担い手」

【日時】2011年9月20日 15:00～17:00

生活環境が変化する中で、問題の本質を探り、個人としてどう取り組んでいくべきか。既存の価値観の延長線ではなく新たな社会づくりのために何が必要か。「創造力」の源泉は、柔軟な発想とさまざまな分野に関する「既存の知識の意外な組み合わせから生まれる」と語る同氏に、社会づくりの担い手としての NPO、ボランティアの可能性についてお話いただく。

講師: 松岡 紀雄 氏(神奈川大学 名誉教授)

【略歴】公益社団法人日本フィランソロピー協会理事。京都大学法学部卒業。松下電器産業(現パナソニック)株式会社入社。株式会社PHP研究所へ出向しアメリカPHP研究所代表、株式会社国際PHP研究所代表取締役兼英文国際版PHP編集長、(財)経済広報センター主任研究員、神奈川大学経営学部教授を経て、2011 年 4 月より現職。

2. ゼロから始める広報と資金調達

【日時】2011年10月6日 15:00～17:00

民間非営利団体が継続的に活動をしていくためには、戦略的なマネジメント、資金調達は不可欠だが、多くの民間非営利団体にとって大きな課題となっている。認定NPOとして多くの個人からの寄付を受けている同団体に国内で賛同者を得、安定した財源を構築していくための努力と工夫、課題についてお話いただく。

講師：木山啓子氏(認定NPO法人ジェン 事務局長)

【略歴】大学卒業後、電機メーカーなどに5年間勤務。その後ニューヨーク州立大学大学院(社会学)修士課程修了。1994年JEN創設に参加、旧ユーゴスラビア現地統括責任者として6年間駐在。2000年から現職。以後、スーダン、アフガニスタン、ミャンマー、イラク、スリランカ、新潟、パキスタン等で支援活動に従事。日経ウーマン誌ウーマン・オブ・ザ・イヤー2006大賞受賞。2005年エイボン女性功績賞受賞

3. ソーシャルビジネスの計画立案、成果とは

【日時】2011年10月13日15:00～17:00

農村の過疎化、担い手不足の一方で都市部住民の国産志向、健康志向は拡大している。

産業としての魅力を取り戻し、また地域活性へとつなげていくために、農村と都市はどのように支え合えるのか。「市民社会ネットワーク」をそのモデルとする同氏の取り組みから、そのヒントを探る。

講師：曾根原 久司 氏(NPO 法人えがおつなげて 代表)

【略歴】長野県出身、東京の大学を卒業後、フリーター、ミュージシャンを経て、経営コンサルタントの道へ。銀行などの経営指導を通して日本の未来に危機を感じ、その救済モデルを創造すべく、東京から山梨の農山村地域へと移住。林業・農業をしながら“村・人・時代づくり”をコンセプトにNPOとしての活動とネットワークを広げている。

4. 地域におけるネットワークづくり～点から面へのアプローチ～

【日時】2011年10月19日15:00～17:00

NPO やソーシャルビジネスが地域の共有財産となり、地域全体が向上していくために何が必要か、価値あるネットワークづくりの秘訣は何か。事業に関わる人が「生き甲斐づくり」から組織、地域の「戦力」となるために留意することについて、地域経営者の「よろず相談役」であり、人と人を結びつけるコーディネーターとして地域活性化に寄与する同氏にお話いただく。

講師：長島 剛 氏(多摩信用金庫 価値創造事業部 部長)

【略歴】1989年入庫。支店勤務を経て企画部門に。大人のためのライフスタイルを応援する倶楽部「多摩らいふ倶楽部」を立ち上げ、地域限定の“強み”を活かした組織化を実現。現在会員数3万人。地域情報紙「多摩ら・び」を企画・発行。多摩ブルー・グリーン賞、たましんインキュベーション施設「ブルームセンター」、たましん法人総合サービスBOB、NPO事業支援ローン等の企画を担当。2009年1月には広域関東圏CB推進協議会と共催で「多摩CBシンポジウム」を開催。

5. 事業と社会貢献を両輪とする企業経営の実践

【日時】2011年10月24日15:00～17:00

社会的課題を解決するのは非営利団体だけではない。地域の課題に取り組み、地域の人に必要とされ存続する企業がある。「ベンチャー企業が社会貢献する時代」と語る同氏に、事業と社会貢献を両輪とする企業経営の理念と実践、その難しさとやりがいについてお話しいただく。

講師：植木 力 氏(株式会社カスタネット 代表取締役社長・社会貢献室長)

【略歴】1958 年 京都府宮津市生まれ。京都府立峰山高校を卒業後、航空自衛隊に入隊。
大日本スクリーン製造(株)に転職。工場の購買、開発管理課長など管理系の仕事に従事する。
2001 年社内ベンチャー第一号として、オフィス用品販売会社(株)カスタネットを創業。

6. 途上国における商品開発と日本での販売戦略

【日時】2011年11月2日15:00～17:00

価値観が多様化している現代、若者の職業選択意識も、社会課題を解決することを重視するようになっている。フィリピンの貧困層の自立支援のために事業を始め、企業、NPO、地域の枠を超えてチャレンジする社会起業家にその実践と課題、シニア層へ期待することなどお話しいただく。

講師: 横田 宗 氏 (NPO 法人 ACTION 代表)

【略歴】1976 年、東京都出身。高校3年の時にピナトゥボ火山の噴火で被災した孤児院の存在を知り、単身訪問。94 年にACTION設立。1999 年、フィリピン事務局と日本事務局を開設。子どもたちが持っている可能性を発揮できる社会の実現を目指してフィリピンでの孤児院支援、奨学金支援、武道を通じた青少年育成をはじめ、国内では国際理解教育やフィリピンへのボランティア派遣を実施。2010 年、お菓子を再利用したポーチ製作等を通して、女性達の収入向上支援をするエコブランド「エコミスマ」を設立、現在、日本国内の12店舗に出店。企業とのコラボ商品の開発で、企業との連携を拡充している。

7. 視察&講演会 セカンドライフの挑戦～農商工連携で震災復興を～

【日時】2011年11月9日15:00～17:00

農商工連携とは農林水産業と加工、流通を密接につなげて新たな製品やサービスを生み出し地域を活性化させる取り組み。第一次産業を生業とする被災地域で、復興策のひとつとして注目されている。経済産業省大臣官房審議官を最後に退官し、NPOを立ち上げた同氏に、転身の経緯、活動にかける思い、震災復興の取り組みの現状をお話しいただく。

講師: 大塚 洋一郎 氏 (NPO 法人農商工連携サポートセンター 代表理事)

【略歴】1954 年東京生まれ。北海道大工学部原子工学科修士課程修了。79 年旧科学技術庁に入庁。文部科学省宇宙開発利用課長などを歴任。07 年7月経済産業省大臣官房審議官(地域経済担当)として企業立地、ソーシャルビジネス、農商工連携などの地域活性化施策を担当。農商工連携促進法の制定に当初より参画。2009 年7月NPO法人農商工連携サポートセンターを設立。

(4) インターンシップ

NPO・NGO 等でのインターンシップ。

関東近郊(一部遠方)中心に10程度の候補団体から受け入れ先を選択。

【期間】2011年11月後半～12月

※(交通費・昼食代、遠方の場合の宿泊費は参加費用に含まれません)

(5) ワークショップ II

「ふりかえりのワークショップ」

【日時】2012年2月

目的: 従来の縦社会の人間関係から、1 個人としての関係性づくりが原則であることを学んだ後、それを身体反応として実現することを目指す。

ファシリテーター: 塚原 成幸氏 (NPO 法人日本クリニクラウン協会事務局長)

【略歴】大学時代にはピエロとして活動。しかし4年生の時に自動車事故を起こし、笑う事を忘れてしまっていた。そんな時、阪神淡路大震災の復興支援に参加。極限状態の被災地で人生を変える笑いと出会う。自然豊かな長野県でシアター道芸(道化専門劇団)を旗揚げする。

現在、クリニクラウン志望の人たちへの研修・医療関係者等への研修を手がけている

＜2010 年度 外部ワークショップ研修実績＞

5 月 東京都立小児医療センター研修

8 月 MDRT千葉・茨木ブロック講演会

8 月 小児外科小児科学会

2 月 慶應義塾大学ビジネス・スクール

(6) 修了式

【日時】2012年2月

【会場】都内会議室